

# GakuNinRDM ストレージ ダウンローダー・アップローダー 使用手引書 (Windows バイナリ 版)

〇 版

2025.09.18

データ管理システム開発ユニット) 平岡 千明

改訂履歴

版数	改訂日	改訂者	対象	改訂内容
0	2025.09.18	平岡千明	全体	新規作成

## 目次

1	はじめに .....	4
2	前提条件 .....	4
3	インストール .....	4
4	Config ファイルの作成 .....	5
5	ダウンローダーの実行方法 .....	6
6	アップローダーの実行方法 .....	7
付録.....		9
A. Config ファイルと設定パラメタ .....		9
B. ストレージプロバイダ名.....		11
C. パーソナルアクセストークン.....		12
D. プロジェクト ID.....		14
注意事項 .....		15

## 1 はじめに

このソフトウェアは、GakuNin RDM で使用しているアドオンストレージに格納されたデータに関して、Windows 上のローカルの環境にダウンロードもしくはローカルの環境からアップロードするためのプログラムです。

## 2 前提条件

動作 OS は、Windows であることが前提です。

## 3 インストール

### ① 本ソフトウェアの取得

Web ブラウザ等で以下の URL よりダウンロードしてください。

[https://dmsutil.riken.jp/tool/grdm\\_storsync\\_win-0.1.1.zip](https://dmsutil.riken.jp/tool/grdm_storsync_win-0.1.1.zip)

### ② 本ソフトウェアのインストール

ダウンロードした本ソフトウェアのパッケージ（ZIP ファイル）を、適当なディレクトリに解凍・展開してください。

エクスプローラー上で ZIP ファイルを右クリックして、表示されたメニュー内から「すべて展開」を選択します。その後、表示されるダイアログで展開先のディレクトリを指定して「展開」ボタンをクリックしてください。

## 4 Config ファイルの作成

3.で展開したファイルの `dotenv_template` を参考にして、ユーザごとの設定を記述した Config ファイルを作成します。適当なエディタを使って、以下のような `.env` ファイルを作成してください。

【.env ファイルの例】

```
GRDM_ACCESS_TOKEN="ABCDEFGHJKLM0123456789NOPQRSTUVWXYZ"
GRDM_OSF_API_BASEURL="https://api.rdm.nii.ac.jp/v2/"
GRDM_WB_API_BASEURL="https://files.rdm.nii.ac.jp/"
GRDM_PROJECT_ID="xyz01"
GRDM_STORAGE_PROVIDER="osfstorage"
GRDM_MOUNT_POINT="C:\Users\¥¥Documents\¥¥mnt_dir"
GRDM_INTERACTIVE_FLAG=FALSE
```

- ファイル名は `.env` とし、本ソフトウェアの `exe` ファイルと同じフォルダに置いてください。
- 以下の6つの環境変数は必須です。

環境変数名	説明
GRDM_ACCESS_TOKEN	ユーザが GakuNin RDM で設定した <u>パーソナルアクセストークン</u>
GRDM_OSF_API_BASEURL	GakuNin RDM の OSF API のベース URL
GRDM_WB_API_BASEURL	GakuNin RDM の WaterButler API のベース URL
GRDM_PROJECT_ID	GakuNin RDM 上の <u>プロジェクト ID</u> (5 桁の英数字)
GRDM_STORAGE_PROVIDER	ダウンロード/アップロード対象のデータが格納される GakuNin RDM のストレージ名
GRDM_MOUNT_POINT	マウントポイント = ダウンロード/アップロード対象のデータが格納されるローカルのフォルダのパス

- ✓ 上記以外の環境変数については、付録 A. を参照してください。
- ✓ パーソナルアクセストークンの取得については、付録 C. を参照してください。
- ✓ プロジェクト ID の確認については、付録 D. を参照してください。
- ✓ OSF API および WaterButler API のベース URL については、アクセス先の GakuNin RDM のシステム管理者に確認願います。上記の例は、NII の GakuNin RDM の場合です。
- ✓ GakuNin RDM のストレージ名 (GRDM\_STORAGE\_PROVIDER の値) が不明の場合は、付録 B. を参照してください。上記の例は、デフォルトストレージの場合

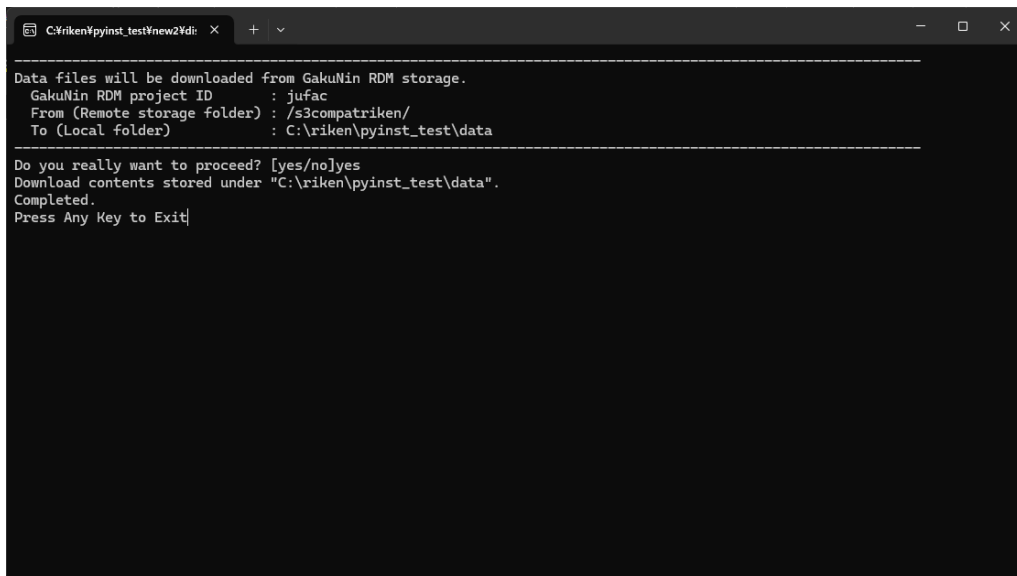
合です。

- ✓ GRDM\_MOUNT\_POINT は、実行時のオプションで指定する場合に限り、省略可能です。
- ✓ ローカルフォルダーのパスを指定する場合は、¥マークを¥¥にしてください。(例: GRDM\_MOUNT\_POINT="C:¥¥user¥¥local¥¥data")
- ✓ 何らかの理由で本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダに .env が作成できない場合は、任意のファイルに作成し、そのパスをコマンド実行時の引数で指定してください。(env より優先されます)

## 5 ダウンローダーの実行方法

GakuNin RDM のストレージからローカルの環境ヘデータをダウンロードするには、エクスプローラーから grdm\_stordl.exe をダブルクリックします。なお、事前、空のマウントポイント (GRDM\_MOUNT\_POINT で指定したフォルダ) を作成しておいてください。

実行画面例)



```
C:\riken\pyinst_test\new2\fdi>
Data files will be downloaded from GakuNin RDM storage.
GakuNin RDM project ID : jufac
From (Remote storage folder) : /s3compatriken/
To (Local folder) : C:\riken\pyinst_test\data

Do you really want to proceed? [yes/no]yes
Download contents stored under "C:\riken\pyinst_test\data".
Completed.
Press Any Key to Exit|
```

ダブルクリックすると、実行画面が表示されます。

GRDM\_INTERACTIVE\_FLAG が TRUE の場合には、ダウンロードの概要表示の後に yes/no の入力待ちとなり、処理を継続する場合には、yes を入力するとダウンロードが実行されます。ダウンロード後は Enter キーの入力が求められるので、Enter キーで画面を閉じます。

実行処理の継続/中断の確認や Enter キーの操作を行いたくない場合には、環境変数の GRDM\_INTERACTIVE\_FLAG を FALSE に設定してください。(※実行時に「-y/--yes」オプションを使うことも可能です)

## 【ダウンローダープログラムの使用できるオプション】

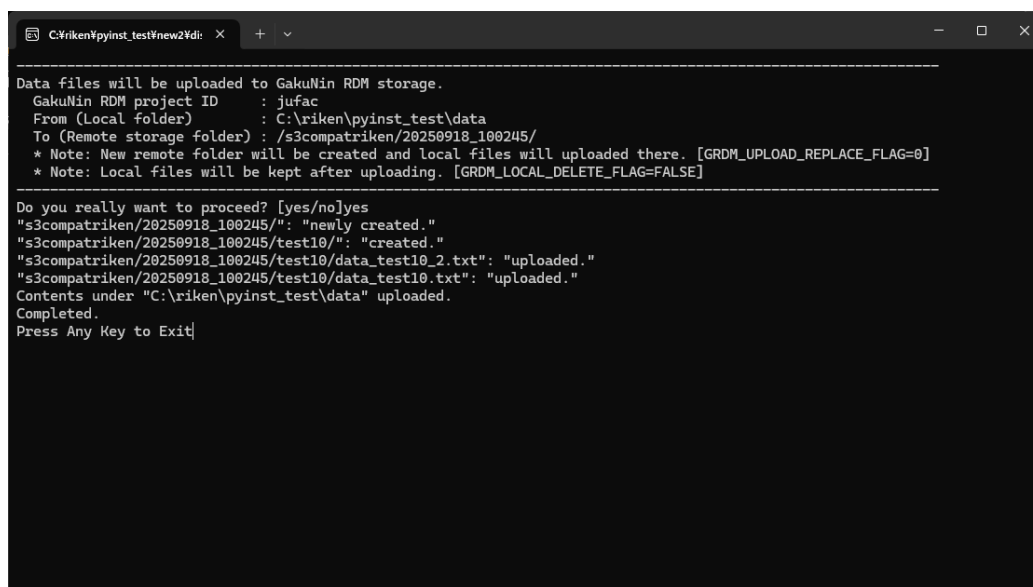
grdm\_stordl.exe {Config ファイルパス} -mp/--mount\_point {マウントポイント} -y/--yes

- オプションの指定方法は、ダウンローダープログラムのショートカットキーを作成し、リンク先(T)の欄にオプションを追加してください。
- grdm\_stordl.exe が格納されているフォルダ以外で実行する場合は、grdm\_stordl.exe までのパスで指定してください。
- Config ファイルパスは省略できます。その場合は、本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダの .env が読めます。(無い場合は grdm\_stordl.exe が格納されるフォルダの .env が読めます)
- Config ファイルパスで指定したファイル中での設定が.env の設定より優先されます。
- -mp (または--mount\_point) オプションでマウントポイントを指定した場合は、Config ファイル (.env 等) でのマウントポイントの設定より優先されます。
- マウントポイントのフォルダは事前に作成してください。また、フォルダ内が空でない場合はダウンロードしません。
- -y (または--yes) オプションが指定された場合は、処理の継続/中断の確認をスキップします。(「yes」が入力されたとみなして処理を継続します)

## 6 アップローダーの実行方法

ローカル環境から GakuNin RDM のストレージヘデータをアップロードするには、エクスプローラーから grdm\_storul.exe をダブルクリックします。

実行画面例)



ダブルクリックすると、実行画面が表示されます。

GRDM\_INTERACTIVE\_FLAG が TRUE の場合には、アップロードの概要表示の後に yes/no の入力待ちとなり、処理を継続する場合には、yes を入力するとアップロードが実行されます。アップロード後は Enter キーの入力が求められるので、Enter キーで画面を閉じます。

実行処理の継続/中断の確認や Enter キーの操作を行いたくない場合には、環境変数の GRDM\_INTERACTIVE\_FLAG を FALSE に設定してください。（※実行時に「-y/--yes」オプションを使うことも可能です）

### 【アップローダープログラムの使用できるオプション】

```
grdm_storul.exe {Config ファイルパス} -mp/--mount_point {マウントポイント} -y/--yes
```

- オプションの指定方法は、アップローダープログラムのショートカットキーを作成し、リンク先(T)の欄にオプションを追加してください。
- grdm\_storul.exe が格納されているフォルダ以外で実行する場合は、grdm\_storul.exe までのパスで指定してください。
- Config ファイルパスは省略できます。その場合は、本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダの .env が読めます。（無い場合は grdm\_storul.exe が格納されるフォルダの .env が読めます）
- Config ファイルパスで指定したファイル中での設定が .env の設定より優先されます。
- -mp（または--mount\_point）オプションでマウントポイントを指定した場合は、Config ファイル（.env 等）でのマウントポイントの設定より優先されます。
- -y（または--yes）オプションが指定された場合は、処理の継続/中断の確認をスキップします。（「yes」が入力されたとみなして処理を継続します）

### 【捕捉事項】

- アップロードに関するフラグについては 付録 A. を参照してください。  
デフォルトでは、アップロード先のフォルダ（ターゲットフォルダ）を上書きせず、ターゲットフォルダ以下に新規フォルダ（※フォルダ名はアップロード時の日付と時刻から；例えば“20241231\_235959”）を作成し、そこにデータをアップロードします。上書きしたい場合は、GRDM\_UPLOAD\_REPLACE\_FLAG の値を 1 か 2 に設定してください。
- ダウンロードしたものから更新・追加分を上書きアップロードする場合  
（GRDM\_UPLOAD\_REPLACE\_FLAG=2）、マウントポイントにはダウンロード時と同じパスを設定してください。
- デフォルトでは、ローカル環境にあるデータは GakuNinRDM のストレージへのアップロード後も削除されることはありません。もし、アップロード後に自動的に削除したい場合は、GRDM\_LOCAL\_DELETE\_FLAG の値を TRUE に設定してください。



## 付録

### A. Config ファイルと設定パラメタ

Config ファイルは、ユーザごとの設定を記述するためのファイルです。基本的には、本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダの .env ファイルに環境変数として設定します。設定の優先順位は以下の通りです(1 > 2 > 3)。

1. コマンド実行時の引数で指定されたファイル中の設定
2. .env ファイル中の設定
3. OS の環境変数設定

- .env ファイルは、本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダに無ければ、実行するプログラムが格納されているフォルダ(※)の .env を探します。(※本ソフトウェアのパッケージを展開したフォルダ)
- 本ソフトウェアでは、JSON 形式のファイルでも設定できます。その場合はファイルの拡張子を「.json」とし、コマンド実行時の引数でファイルパスを指定してください。また、キーは大文字ではなく小文字で記述してください。

本ソフトウェアで設定できるパラメタ以下の通りです。なお、一部のパラメタは設定を共有する別ソフトウェア(GakuNinRDM ストレージマウンター)でのみ利用され、本ソフトウェアでは利用されません。

パラメタ (環境変数)	型	説明
GRDM_ACCESS_TOKEN	str	ユーザが GakuNin RDM で設定した <u>パーソナルアクセストークン</u>
GRDM_OSF_API_BASEURL	str	GakuNin RDM の OSF API のベース URL
GRDM_WB_API_BASEURL	str	GakuNin RDM の WaterButler API のベース URL
GRDM_PROJECT_ID	str	GakuNin RDM 上の <u>プロジェクト ID</u> (5 桁の英数字)
GRDM_STORAGE_PROVIDER	str	ダウンロード/アップロード対象のデータが格納される GakuNin RDM のストレージ名
GRDM_MOUNT_POINT	str	マウントポイント = ダウンロード/アップロード対象のデータが格納されるローカルのフォルダのパス
GRDM_TARGET_FOLDER	str	ダウンロード/アップロード対象のデータが格納される GakuNin RDM のストレージ内のフォルダのパス [default="/" (ストレージのトップ)]
GRDM_UPLOAD_CONCURRENT	int	データアップロード時の同時処理数 [default=10]
GRDM_UPLOAD_REPLACE_FLAG	int	データアップロード時に GakuNin RDM のストレージにある元データを上書きするかかどうかのフラグ (0:上書きしない / 1:すべて上書き)

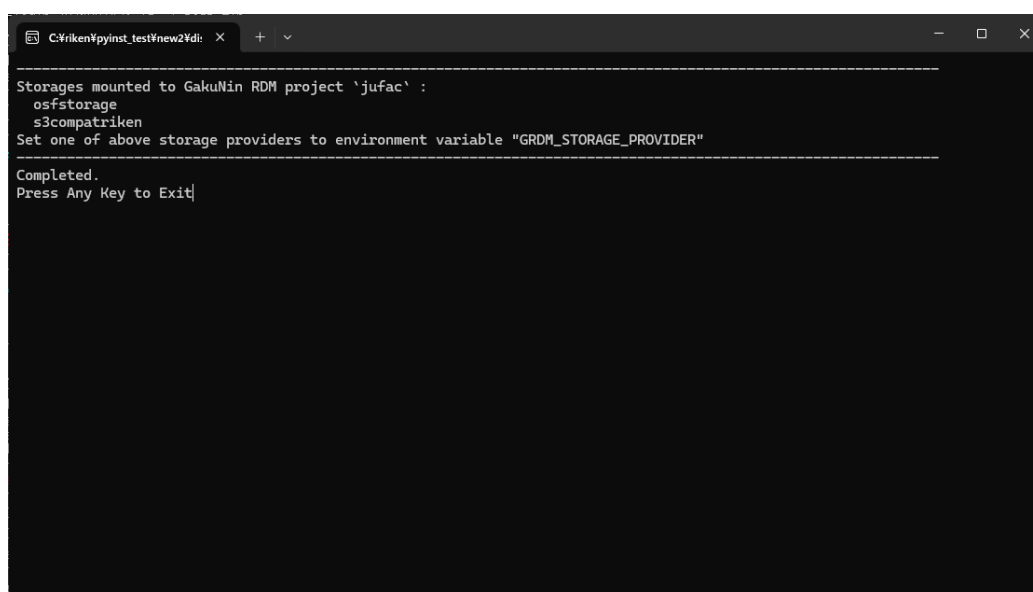
		書きする / 2:ダウンロードしたものから更新・追加分のみ上書きする) [default=0 (上書きしない)]
GRDM_LOCAL_DELETE_FLAG	bool	データアップロード後にローカルのデータを削除するかどうかのフラグ [default=FALSE (削除しない)]
GRDM_INTERACTIVE_FLAG	bool	処理の継続/中断をインタラクティブに確認するかどうかのフラグ (確認しない場合は、yesが入力されたものとして処理を継続する) [default=TRUE (確認する)]
GRDM_OUT_LOG	str	(※本ソフトウェアでは利用しない) コマンドのログの出力ファイルのパス

- GRDM\_TARGET\_FOLDER はストレージのトップ (“/”) を含む絶対パスで指定してください。
- GRDM\_UPLOAD\_REPLACE\_FLAG が FALSE の場合は、アップロード先のフォルダ (ターゲットフォルダ) 以下に新規フォルダ (※フォルダ名はアップロード時の日付と時刻から; 例えば “20241231\_235959”) を作成し、そこにデータをアップロードします。
- default 値が記載されていないパラメタが設定されない場合は、本ソフトウェアでは None として扱われ、処理がエラーになります。(GRDM\_OUT\_LOG は設定されなくても処理はエラーになりません)

## B. ストレージプロバイダ名

GRDM\_STORAGE\_PROVIDER で指定する値（ストレージプロバイダ名）が不明な場合は、本ソフトウェアのパッケージに同梱してある grdm\_storls.exe をエクスプローラーからダブルクリックします。その実行結果として、GRDM\_PROJECT\_ID で指定する GakuNin RDM のプロジェクトにマウントされているストレージ名のリストが表示されますので、該当するものを選んでダウンローダー/アップローダーの GRDM\_STORAGE\_PROVIDER に指定してください。

実行画面例)



```
C:\riken\pyinst_test\new2\di X
-----
Storages mounted to GakuNin RDM project `jufac` :
osfstorage
s3compatriken
Set one of above storage providers to environment variable "GRDM_STORAGE_PROVIDER"
-----
Completed.
Press Any Key to Exit|
```

### 【ストレージプロバイダー名確認プログラムの使用できるオプション】

grdm\_storls.exe {Config ファイルパス} -p {プロジェクト ID}

- オプションの指定方法は、ストレージプロバイダー名確認プログラムのショートカットキーを作成し、リンク先(T)の欄にオプションを追加してください。
- grdm\_storls.exe が格納されているフォルダ以外で実行する場合は、grdm\_storls.exe までのパスで指定してください。
- ここで設定が必要な Config パラメタは、GRDM\_ACCESS\_TOKEN、GRDM\_PROJECT\_ID、および GRDM\_OSFAPL\_BASEURL の 3 つだけです。
- Config ファイルパスは省略できます。その場合は、本ソフトウェアの exe ファイルと同じフォルダの .env が読めます。
- Config ファイルパスを指定した場合は、そのファイル中での設定が優先されます。
- -p オプションでプロジェクト ID を指定した場合は、Config ファイル(.env 含む)でのプロジェクト ID の設定より優先されます。

### C. パーソナルアクセストークン

GRDM\_ACCESS\_TOKEN で指定するパーソナルアクセストークンは、GakuNin RDM にて以下の手順で設定します。

- 1) GakuNin RDM にログイン後、画面右上のユーザ名をクリックし、「設定」を選択します。



- 2) 左メニューから「パーソナルアクセストークン」を選択し、「新規トークン」ボタンをクリックします。



- 3) 以下のようにトークン名（任意）とスコープを設定し、「作成」ボタンをクリックします。



- 4) トークン ID が作成されますが、この時点では保存されていないため、「保存」ボ

タンをクリックします。

設定

プロフィール  
アカウント設定  
アドオンアカウント構成  
メール通知設定  
開発者アプリ  
パーソナルアクセストークン

« 登録済みトークンのリストに戻る

トークン名

スコープ ☒ osf.full\_read ☒ osf.full\_write ☒ osf.users.email\_read ☒ osf.users.profile\_read

キャンセル 削除 保存

新しい個人用アクセストークンが正常に生成されました。このトークンは期限切れになりません。このトークンを他の人と共有しないでください。誤って公開された場合は、すぐに無効にする必要があります。

画面を離れると、トークンは二度と表示されません

トークンID

クリップボードにコピー

- 5) 「クリップボードにコピー」 ボタンをクリックしてトークン ID をコピーし、ファイル等に保存します。(※この文字列を GRDM\_ACCESS\_TOKEN に指定してください)

設定

プロフィール  
アカウント設定  
アドオンアカウント構成  
メール通知設定  
開発者アプリ  
パーソナルアクセストークン

« 登録済みトークンのリストに戻る

トークン名

スコープ ☒ osf.full\_read ☒ osf.full\_write ☒ osf.users.email\_read ☒ osf.users.profile\_read

キャンセル 削除 保存

トークンデータが更新されました

画面を離れると、トークンは二度と表示されません

トークンID

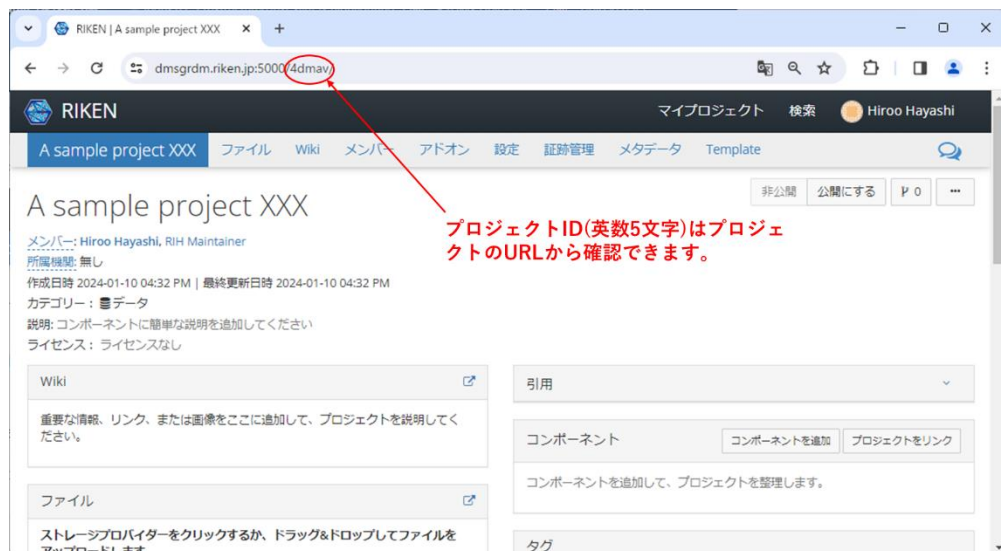
クリップボードにコピー

- 6) パーソナルアクセストークンの画面に戻り、作成したトークン名が表示されていることを確認します。



#### D. プロジェクトID

GRDM\_PROJECT\_ID で指定するプロジェクト ID は、ダウンロード/アップロード対象のデータが格納されたストレージをマウントしている GakuNin RDM のプロジェクトに付与されている ID（英数 5 文字）のことです。プロジェクトの URL の末尾の 5 文字（/を除く）が該当しますので、ブラウザでプロジェクトのページにアクセスし、アドレスバーから確認してください。



## 注意事項

S3 ストレージを使用している場合に、S3 のバージョンニング設定を行っている場合には、正しくダウンローダー/アップローダーを行うことができません。

※GakuNinRDM が S3 のバージョンニングに対応していないため。